大好き☆出雲！

よすみちゃん

弥生の出雲王に出会える

出雲弥生の森博物館だより
IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

季刊
第39号
（2020年10月）

開館10周年記念イベント

開館10周年を記念し、さまざまなイベントを開催します。

★「子ども獅子舞」
11月7日（土）
三谷神社獅子舞保存会
9時30分～9時50分

★開館10周年記念式典
9時50分～10時45分

★常設展リニューアル解説
第1回　11時～11時30分
第2回　13時～13時30分

★FROGMANトークショー!!
～新キャラクターあらわる!?～
11時～12時

要申込
―申込方法―
申込締切　10月14日（水）必着
当日受付なし　抽選40名
※小学生以下の参加は保護者同伴でお申し込みください
※抽選結果は10月下旬に申込者全員に葉書でお知らせします。
○申込方法　電話・FAXのみ
○申込受付時間　9時～17時
○必要事項　氏名・電話番号・住所

★よすみちゃん&新キャラクターと写真を撮ろう♪　12時～13時

★弥生の森カフェ9時30分～14時
（販売は13時30分まで）

★よすみちゃんクイズ
9時30分～14時

子ども獅子舞

FROGMAN（フロッグマン）がテレビ電話で出演！

©DLE
「しまねの吉田くん」
生みの親 FROGMAN

＊おねがい＊
イベント当日は、感染症予防のためマスクの着用、手指の消毒、出入り口での体温測定、氏名・電話番号の記入にご協力ください。なお、発熱・咳・喉の痛みなどの症状がある場合は入館をご遠慮ください。
※感染症の拡大防止のため内容を変更する場合がございます。最新情報は、博物館ホームページをご確認ください。

★パネル展「出雲弥生の森博物館 開館10年展示のあゆみ」

11月7日（土）～3月29日（月）

当館は2010（平成22）年4月29日の開館以来、常設展とは別に期間を区切った展示を、これまでに約110回開催してきました。

これらは特別展、企画展、ギャラリー展などと銘打ち、主に埋蔵文化財に関連したテーマを設定してきました。最新の研究成果や注目されている出土資料などを紹介するもので、博物館としての当館の主要事業です。

開館10周年記念イベントにあわせて、これまでの展示の歩みを振り返えるパネル展を開催します。在庫があるパンフレットについては、ご自由にお持ち帰りいただけますので、この機会にぜひお立ち寄りください！

（三原 一将）

開館記念特別展（2010年）
オープン式典のようす

★開館10周年記念特別展
「出雲・上塩冶築山古墳とその時代」
好評開催中～12月21日(月)

出雲弥生の森博物館は今年10周年を迎えました。これを記念して、特別展「出雲・上塩冶築山古墳とその時代」を開催します。

今回の特別展は、6世紀に造られた中国・四国地方の主要古墳の副葬品を展示し、日本の古代国家が成立する直前の時代について上塩冶築山古墳を中心に紹介します。

ここでは、展示の目玉の1つ、「ハエの蛹殻からわかった殯」について紹介します。古代、身分の高い人が亡くなると本葬する前に、遺体を喪屋に安置し、「死の確認」をしながら、死者の鎮魂を願います。これらの儀礼ないし期間は「殯」と呼ばれています。近年、古墳時代に各地で殯が行われていたことがわかってきました。その証拠は、3～5㎜程のハエの蛹殻（囲蛹殻）です。

ハエは明るいところで活動する昆虫です。遺体に産みつけられた卵は、幼虫（ウジ）、蛹を経て、産卵から約2～3週間で成虫になります。ハエには死後すぐに遺体にたかるクロバエ科や、死後3～4日後にたかるイエバエ科（ヒメクロバエ属など）などがいます。

イエバエ科などの囲蛹殻が発見されるのは、真っ暗な埋葬施設に置かれた副葬品などの上です。暗闇ではハエが活動できないことから、遺体と副葬品は明るい日が差す場所に1週間以上安置された後、埋葬施設に運ばれたことが推測できます。これが殯の期間にあたります。古墳時代、全国で50例、島根県内でも3例のハエの囲蛹殻の発見例があります。今回は、出雲市結11号墳（5世紀）の鉄剣に錆付いたハエの囲蛹殻を展示します。残念ながら上塩冶築山古墳からは発見されていませんが、ここに埋葬された人達も、殯を経たと推測します。

（坂本 豊治）

鉄剣に錆付いたハエの囲蛹殻
（出雲市斐川町結11号墳）

★速報展
「新発見・横穴墓の線刻壁画 ―神門横穴墓群の調査から―」
好評開催中～1月18日(月)

2018（平成30）年度から2019（令和元）年度に発掘調査を行った神門横穴墓群第10支群の成果を紹介します。

昨年度の調査では玄室内に線刻壁画のある横穴墓を1基確認しました。この横穴墓では、鋭い工具を使って天井や壁に矢や動物？などが描かれています。なぜこのような壁画が描かれたのでしょうか。市内3か所で確認された横穴墓の線刻壁画と比較し、その謎にせまります。

（石原 聡）

玄室内に描かれた線刻壁画

★文化庁「記念物100年」参加事業
「記念物100年」パネル展
好評開催中～12月7日(月)

文化財保護法において、文化財は有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物・文化的景観・伝統的建造物群の6種に分類されます。

これらのうち記念物と有形文化財は、文化財保護法の前身である史蹟名勝天然紀念物保存法（1919年制定）と国宝保存法（1929年制定）によって、それぞれ保護の対象とされていました。

昨年、2019年は史蹟名勝天然紀念物保存法が制定されて100年の節目の年にあたります。これを記念し全国の代表的な記念物（史跡・名勝・天然記念物）を紹介するパネル展を開催します。

この展示を契機に記念物を「国民・地域の宝」として未来に継いでいく機運が高まれば幸いです。

（三原 一将）

国指定・天然記念物
「経島ウミネコ繁殖地」
のウミネコの親子

★ギャラリー展
「悪疫退散！小さきモノに込めた祈り ―マツリの道具の歴史―」
好評開催中～11月30日(月)

現在、新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延し、各地で猛威を振るっています。

このような、人間と疫病との関わり合いは有史以来繰り返されてきました。そうした中で、医術が発展していない時代においては、時に「祈り」だけが治療の術となることもありました。

人びとの祈りは、歴史の流れの中で変わっていきました。

縄文時代、環境の変化が自らの生命の存続に直結し、人びとは自然の中に宿る神と共に生きることが暮らしを安定させると考えていました。そのため祈りは彼らの生活の一部となっていました。

弥生時代、コメ作りが伝わると、自然を活かす農耕が彼らの生活の中心となり、新たに農耕の神が祈りの対象となりました。人びとにとって、神とは自らの社会に恵みをもたらす存在と意識されるようになるのです。そして古墳時代の人びとも、生活に影響を与える自然の中に神の存在を見て、巨大な自然石や樹木の下などで何度もマツリを行いました。神と人びとの関係は、次第に対極的なものとなっていきました。

古代になると、個人の除災延命を願う道具が受容され、社会の安定を目的とした祈りとともに個人的な祈りも盛んになりました。さらに中世には仏教が浸透し、神道や修験道、陰陽道の要素も加わり、祈りの世界観は複雑なものとなっていくのです。

今回の展示では、縄文から江戸時代にいたる「祈り」あるいは「マツリ」の場面で使われた小さな道具に注目します。ミニチュアの食器や鳥形、舟形の木（土）製品など、時代を通して変わらないものも見られます。当時の人びとは、どのような祈りを込めたのでしょうか。

（髙橋　周）

ミニチュア土器
／矢野遺跡（矢野町）
＊高さ 3.8㎝【弥生前期】

★古文書の森をゆく④
「たたらの燃料　山から海から」

江戸時代、生産の主要エネルギー源は薪や木炭でした。炊事や暖房など庶民の生活をはじめ、あらゆる場面で欠かせない資源でした。なかでも、たたら製鉄は大量の燃料を必要とし、たたら吹き1回に木炭を10㌧～13㌧使いました。たたらは多いときで年に60回吹かれており、すさまじい量の木炭が消費されたことが想像できます。

出雲市多伎町奥田儀宮本を拠点に活動した鉄師・田儀櫻井家は燃料の炭を得るために、各たたらの近くや、基幹炉である越堂たたら周辺の奥田儀・口田儀などで山林を買い集めます。また、たたら吹きに松炭を加えると「鉄涌き立ち」良質な鉄を生産できることから、鰐淵寺領の山や鵜峠・鷺・日御碕、杵築から口田儀までの海岸部や、さらに海の向こうの隠岐からも松炭を調達し、舟で越堂に運び込みました。

炭の調達について、田儀櫻井家の古文書「年々見合帳」には1825（文政8）年に次のように書かれています。

「奥田儀村宮本屋多四郎儀、杵築北嶋様社山の内、炭山に買い受け候に付き、私儀、山子の者召し連れ罷り越し、立木、炭に焼き候」。

田儀櫻井家の下で製炭業に従事する人々が、生活拠点の宮本から島根半島まで出かけ、竈を作り現地で炭を生産したことが分かります。

このように、田儀櫻井家は出雲国内外で山林や木炭を購入したり、立木権を買い現地で製炭を行ったりして、製鉄に必要な大量の資源を獲得していました。

（春日　瞳）

竈（右）に材木を入れる様子
「炭焼図」『日本山海名物図絵』
（国立国会図書館デジタルコレクション）を一部加工

★展示のご案内　※観覧料無料

▼開館10周年記念特別展
好評開催中～12月21日(月)
「出雲・上塩冶築山古墳とその時代」

▼ギャラリー展
好評開催中～11月30日(月)
「悪疫退散！小さきモノに込めた祈り―マツリの道具の歴史―」

▼速報展
好評開催中～1月18日(月)
「新発見・横穴墓の線刻壁画―神門横穴墓群の調査から―」

▼スポット展
11月7日(土)～3月29日(月)
「出雲弥生の森博物館展示のあゆみ」

▼文化庁「記念物100年」参加事業
好評開催中～12月7日(月)
「記念物100年」パネル展

★講座のご案内

▼館長講座
ローマは一日にして成らず、日本の博物館もまた然り。モノを収集、保管、展示してきた歴史を語ります。

●申込受付　10月15日(木)開始

●受講料　300円
●講　師　花谷　浩

①11月28日(土)　14時～16時
「博物館の歴史1　日本古代・中世」

②1月9日(土)　14時～16時
「博物館の歴史2　日本近世」

③1月30日(土)　14時～16時
「博物館の歴史3　日本近代」

講座の申込について
当日受付なし　先着40名
事前申込必須(電話・FAXのみ)
●申込受付時間　9～17時
●必要事項　氏名・電話番号・住所
※講座当日は、感染症予防のため、マスクの着用、手指の消毒受付での体温測定にご協力ください。なお、発熱・咳・喉の痛みなどの症状がある場合は受講をご遠慮ください。

★館長古来夢(こらむ)

開館10年を記念した特別展「上塩冶築山古墳とその時代」が開催中だ。

40年ほど前、私が初めて上塩冶築山古墳を訪ねた時のこと。当時、地主さんに鍵を借りないと石室に入れなかった。懐中電灯を携えていなかった私は、心構えがなっていない、とお叱りを受けた。

25年前、島根県古代文化センターが出土品の報告書を作った時、少しばかりお手伝いをさせていただいた。

5年前、重要文化財指定に向けた出雲市の調査研究が始まり、馬具を担当した。県報告の図面が残っているはず、と高を括っていたら行方知れず。一から図面を描く羽目になり、老眼に目薬を垂らしながらの作業となった。

さて、上塩冶築山古墳の金銅冠を復元する時に参考としたのが、王墓山古墳（香川県善通寺市）の冠だった。手元にその図面があったから、が一つの理由だった。

遡ること30年、当時、王墓山古墳の出土品は、奈良文化財研究所で保存処理がなされていた。香川出身の町田章さん(のち所長)の伝手だった。復元品を製作するので図面を作るように町田さんから指示があり、実測図と復元図を作成した。恐ろしいことにそのまま復元品ができあがった。

2年前、これらの図面は、善通寺市に寄贈した。報告書が完成すれば、町田さんも喜ばれるだろう。

今回、上塩冶築山古墳と王墓山古墳の冠復元品が並んだ。もちろん資料の構造が類似するからなのだが、個人的には見えない縁で二つの作品が結ばれているように思えて仕方がない。

133年ぶりとなる東京国立博物館所蔵の上塩冶築山古墳出土品の里帰りはかなわなかったが、意欲的な展示となったと思う。ご観覧のほどお願いします。（花谷　浩）

(発行)出雲弥生の森博物館
2020年10月
〒693-0011
島根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp
http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori
●入 館 料 / 無 料
●開館時間 / 9:00～17:00
(入館は16:30まで)
●休 館 日 / 火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始